



TITLE:

19. 形状記憶効果を示すCuZnAl合金の疲労特性(大阪大学基礎工学部物性物理学教室,修士論文アブストラクト(1980年度))

AUTHOR(S):

吉田, 典生

CITATION:

吉田, 典生. 19. 形状記憶効果を示すCuZnAl合金の疲労特性(大阪大学基礎工学部物性物理学教室,修士論文アブストラクト(1980年度)). 物性研究 1981, 36(2): 76-76

ISSUE DATE:

1981-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/90265>

RIGHT:

る。

Ge の As, Sb 不純物についてドナーの水素様電子準位の基底状態から励起状態 ($2P_{\pm 1}$, 伝導帯) への光学遷移に伴う吸収を観測した。吸収は光強度の増大とともに小さくなった。この飽和現象から電子の励起状態からの緩和時間を求めた。緩和時間はドナー濃度や遷移した励起状態の違いによる差は見られず $\sim 10\text{nsec}$ であった。Beleznyay, Pataki らの Ge ドナーの準位間の遷移確率の理論計算と比較すると、光学的に励起状態に遷移した電子はすぐにフォノンにより $2S$ 状態に緩和し $2S \rightarrow 1S$ の緩和時間が観測されていると考えられる。 $n\text{-GaAs}$ のドナー準位については光電導の飽和現象から同様に緩和時間を求めた。

19. 形状記憶効果を示す Cu Zn Al 合金の疲労特性

吉 田 典 生

形状記憶効果は、熱弾性型マルテンサイト変態を示す合金に一般にみられる性質で、マルテンサイト状態で変形したのち温度を上げて母相状態にすると変形前の形にもどるというものである。この現象は、学問的にも実用的にも非常に興味深いもので、発見されて以来約 30 年を経た今日では、その機構も明らかになり、実用化も進みつつある。この実用化の際には、機械的性質を知ることは重要であるし、またそれ以上に、この合金がマルテンサイト状態では通常の金属のような転位のすべりによる変形とはまったく違う機構（マルテンサイトの再配列、マルテンサイト中の双晶界面の移動）で変形するということから、その機械的性質に興味もたれる。特に疲労については、通常の金属のような転位の堆積による疲労破壊の現象は発生しないと考えられ興味深いが、その研究は始まったばかりでまだ混沌とした状況である。本研究では、TiNi と共に実用化されつつある CuZnAl 合金の多結晶試料を用いて引張試験、疲労試験を行い、疲労組織を電子顕微鏡で調べ、疲労挙動を明らかにしようとした。疲労試験の結果は次のようになった。くり返し変形を加えると、疲労硬化がおこり、硬化の程度は最初急激であるが、その後は飽和してほとんど硬化しなくなる。硬化が飽和した状態での歪みと疲労寿命との関係を調べると、同じ歪みでの疲労寿命はマルテンサイト変態開始点 (0°C) から 40°C までは大差ないが、マルテンサイト状態では試験温度が低下するにしたがって疲労寿命がのびる。マルテンサイト状態での疲労組織を観察すると、転位密度が増加し、特徴的な転位構造もみられ、さらに転位どうしの相互作用あるいは、マルテンサイトと転位との相互作用が観察されるが、通常の金属にみられるセル構造のような割れの核になる転位の堆積した組織は形成されておらず、結局、破壊は一般に粒界からはじまっていた。